



発行所・大分市府内町 県教育庁文化課内 県芸術文化振興会議事務局
発行人・辻 英 武 編集人・衛 藤 久

県民文化発展の母胎として

県芸術会長 辻 英 武

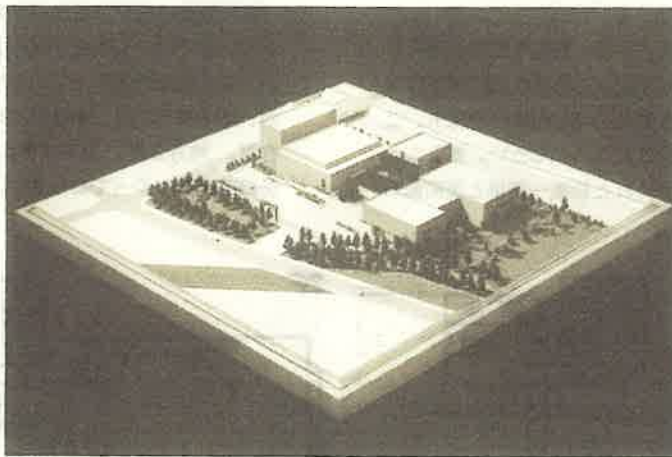
大分県芸術文化振興会議の総会が去る6月24日県町村会館3階ホールで開かれたが、この席で長い間会長を勤めていた米田貞一会長が健康を理由に辞任されることになり、はからずも不肖私がおのあとを引き継ぐことになりました。

米田前会長は会長ご就任以来、そのバイタリティと該博な知識、経験をもとに会長として会の運営に当たり、画期的な業績を残されました。会報「芸振」の発行や、県教委の「郷土の先覚者シリーズ」「大分県文化年鑑」の刊行等への協力、ことに県、県教委大分合同新聞社及び県芸術振興会議の4者共催で開催してきた大分県芸術祭は今年で12回目を迎えますが、その陰にあって県芸術振興会議の果たした役割は決して小さくはなかったと考えます。ここまで持

ってくるのには佐藤義詮初代会長の努力もさることながら、米田前会長の力が大きくものをいっていたことはいまでもありません。そうした前会長のあとを受けて不敏な私が果たして十分お役に立てるかどうか危懼に耐えませんが、お受けした以上は瘦馬に鞭打って何とか努力したいと考えています。

さて、今年文化団体多年の念願でありました大分県芸術会館がよいよ着工され、さる5月29日には大分市裏川

の建設現場で起工式が行われました。当初美術博物館の建設を旨とし、建設期成会を結成して上田保氏を会長に推し、街頭募金やオークションの開催、寄付金集めに精力を集中しましたが、それからすでに10年に近い歳月が流れました。当初建設費は4億円あまりが予想されていましたが、いよいよ着工された芸術会館は建設費だけでも14億円、これに諸設備費を加えると20億円近くかかると聞いております。



県立芸術会館完成予想(模型)

この会館はすぐれた芸術作品の展示はもとより創造活動が可能な総合文化施設として、調査研究や情報提供活動も行われ、自主的な学習の場を提供することも約束されています。多年の念願であっただけに他府県のこの種施設にないすぐれた特徴として劇場と美術館の一体化という構想が打ち出されていますが、来

年6月9日にはその竣工が予定されています。その年の秋に行われる第13回大分県芸術祭からはこの会館が利用されますが、どうか県民に親しまれる会館として立派に完成し、県民文化発展の母胎となることを期待してやみません。

大分県立芸術会館の



構想と開館に夢を

衛 藤 久
県教育庁文化課長

- 一 位 置 大分川の分流裏川の埋立地で、国道197号線の鶴羽橋上流500米の地点が建設地であります。
- 二 敷地及び建築面積 敷地は12,000平方メートル。建築面積は4121.49平方メートルで延床面積は5929.21平方メートルであります。
- 三 構 造 ホール棟は3階建てで舞台の間口は18m、奥行14m、高さ7.5mで客席は1,000席あります。このほかオーケストラピット・リハーサル室・楽屋・ホワイエがあります。管理棟も3階建てで事務管理室や大、中、小の会議室や講堂、講座室、和室、学芸図書室、スタジオ、録音室があります。展示棟は2階建てで、常設展示室、企画第一、第二展示室があります。そのほか収蔵庫、搬入室、荷扱、工作室、エントランスロビーがあります。
- 四 工 期 昭和51年3月17日から昭和52年6月9日となっております。
- 五 設計にあたって 次の3点を特に重要な課題と考えました。第1は、敷地が裏川埋立地の都市公園計画予定地の中央にありますので、会館は公園と連続性を保ち、公園の環境にじゅうぶん適合したものにしたい。第2に、この会館の他府県にないすぐれた特徴一劇場と美術館の

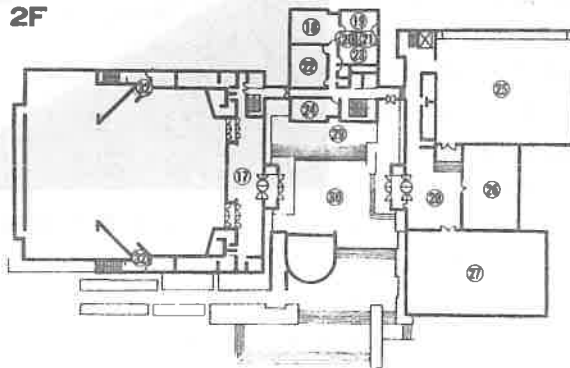
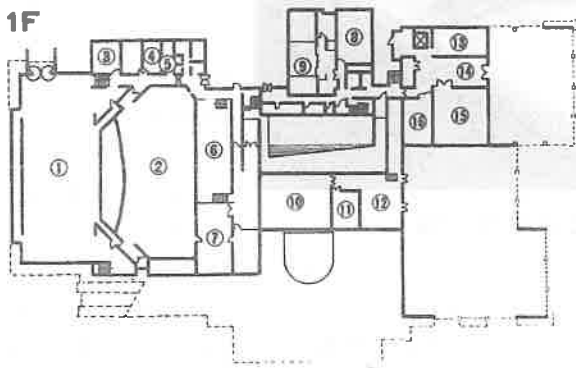
一体化を一を建築的に具体化した。第3は、すぐれた劇場、美術館といわれるものは、その運営の創造性によって評価されるものです。高い識見をもって計画される様々な企画に、フレキシブルに応じられる建築計画にしたい。

六 芸術会館の5つの役割

- 1 県内、国内、海外の芸術作品を紹介したり、音楽、舞踊、演劇等すぐれた芸術鑑賞の場としての役割を果たします。
- 2 あらゆる芸術文化の領域の創造活動が可能な場としての役割を果たします。
- 3 個性や能力、趣味を伸ばし、すぐれた芸術文化を創造しようとする人々の自主的な学習の場としての役割を果たします。
- 4 すべての創造活動の基礎となる調査、研究や情報提供活動を進めます。
- 5 芸術文化活動を通して、人間交流をすすめ、好ましい人間関係をつくる場としての役割を果たします。

七 開館に夢を

芸術会館の開館は昭和52年10月1日にする予定であります。すぐれた芸術を発表し、鑑賞できるものを開館記念行事にしたいと考えています。現在検討中ではありますが、展示部門では、大分県美術千年展、九州近代絵画名作展、地方日展、県美展等。ホール部門では、例年大分県芸術祭でやっておりますような音楽、舞踊、演劇、



- | | | | | |
|-------------|-------------|---------------|-------------|-------------|
| ① 舞 台 | ⑥ リハーサル室 | ⑪ 発 電 機 室 | ⑬ 展 示 用 倉 庫 | ⑰ 録 音 室 |
| ② 客 席 | ⑦ 倉 庫 | ⑫ 電 気 室 | ⑭ ホ ワ イ エ | ⑱ 中 会 議 室 |
| ③ 楽 屋 No. 1 | ⑧ 事 務 室 | ⑬ 搬 入 室 | ⑮ 学 芸 室 | ⑲ 小 会 議 室 |
| ④ 楽 屋 No. 2 | ⑨ 会 議 室 | ⑭ 荷 扱 室・工 作 室 | ⑯ ス タ ジ オ | ⑳ 貴 賓 室 |
| ⑤ 楽 屋 No. 3 | ⑩ 空 調 機 械 室 | ⑮ 収 蔵 庫 | ⑰ 暗 室 | ㉕ 第 1 展 示 室 |

文芸等の発表、鑑賞が考えられます。これらの記念行事によって、会館が大分県芸術文化の殿堂として、県民の心の泉として、光り輝くよう夢をかけましょう。

工事概要

●建設地

大分市裏川

●規模

敷地面積……………12,000㎡
 建築面積……………4,121.49㎡
 延床面積……………5,929.21㎡
 高さ……………21.5m
 地上3階建

●構造

ホール棟…鉄骨鉄筋・鉄筋コンクリート造・一部鉄骨造
 管理棟…鉄筋コンクリート造
 展示棟…鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造

●工期

51年3月から52年6月まで

●設計管理

大分県土木部建築課 株式会社安井建築設計事務所

●ホール棟（3階建）

床面積……………2,863.06㎡
 舞合…間口18m・奥行14m・高さ7.5m
 客席……………1,000席
 オーケストラピット……………70㎡
 リハーサル室……………129.03㎡
 楽屋…No 1 37.75㎡ No 2 49.47㎡
 No 3 15.58㎡
 ホワイエ……………204.49㎡

●管理棟（3階建）

床面積……………1,101.76㎡

事務管理部門……………161.67㎡
 会議室…<大>151.40㎡ <中>60.48㎡
 <小>33.41㎡
 講堂……………142.14㎡
 講座室……………55.08㎡
 和室……………24.46㎡
 学芸・図書室……………57.37㎡
 スタジオ……………28.08㎡
 録音室……………11.36㎡

●展示棟（2階建）

床面積……………1,964.39㎡
 展示室…<常設>174.90㎡
 <第1>608.57㎡ <第2>459.25㎡
 収蔵庫……………126.28㎡
 搬入室……………55.70㎡
 荷扱・工作室……………89.83㎡
 エントランスロビー……………191.96㎡

仕上概要

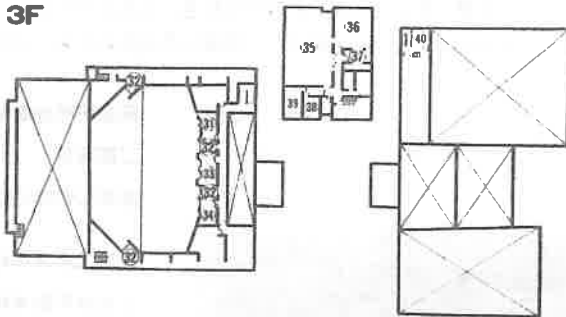
●外装

各棟共通……………磁器2丁掛タイル貼
 屋根…ホール棟・展示棟はアスファルト露出防水、管理棟はアスファルト防水コンクリート押工

●内装

ホール棟
 床……………ビニアスタイル、ゴムタイル
 壁……………有機質吹付タイル
 天井…プラスターボードリシン吹付、岩綿吸音板
 管理棟
 床……………ビニアスタイル
 壁……………モルタルペンキ塗
 天井…岩綿吸音板
 展示棟
 床……………カーペット敷、ゴムタイル
 天井…アルミ型材格子天井、岩綿吸音板

3F



- | | | |
|--------------|----------|----------|
| ②6 常設展示室 | ③1 音響調整室 | ③6 講座室 |
| ②7 第2展示室 | ③2 投影光写室 | ③7 講座準備室 |
| ②8 エントランスロビー | ③3 映写室 | ③8 和室 |
| ②9 サングラデン | ③4 照明調整室 | ③9 空調機室 |
| ③0 プラザ | ③5 講堂 | ④0 機械室 |

配置図



会館独自の企画展を

北野隆士

大分大講師・県美協委員

現在、裏川跡地に建設されつつある芸術会館が、われわれ美術館建設運動をしてきたものにとって、当初期待したものより大きく後退したものであることは、美術協会の多くが認めるところであろう。

地方の各県が競って偉大な庁舎をつぎつぎに建設し、地方の文化振興がさげばれて、総合文化会館という、便宜的な、きわめて利用効果の乏しい会館が出来、地方におけるセントラリティー、集約化が進められてきた。最近、九州においても2、3の県が美術館、博物館等、独自の機能をもつ会館が出来つつあるのを耳にすると、この芸術会館が2つ目の文化会館になりはしないか懸念される。

設計図を見るかぎり立派な環境に大きなホールと展示場等が出来ようであるが、芸術会館に期待と夢をもう一度となれば、やはり少しでも多くの人達がこの会館を気軽に利用できるような運営方法と、年に何度かは、これまでの県芸術祭行事の中にでも県外、又は海外の催し物を一つでも多く加えられるよう、それには予算と会館企画部に優秀なスタッフが是非要求されるであろう。

美術の方からの期待として、全国の各種美術館、博物館との提携を密にし、会館独自の企画展の開催、そのためには、芸術会館という名の建物は一つであるが、企画運営面においては、各芸術分野の独自性を充分にもたせたいものだ。

(〒870-11 大分市且野原大分大学構内宿舎2-14)

三つのお願い

日名子 金一郎

県美協会員

現在、大分に美術館がないことを思う時、誰でも手軽に

自由に創作活動ができる「開かれた芸術会館の完成」が待ちどおしく、次の点に期待するものです。

第1は大分の芸術文化の振興です。県民の生活に溶けこんだ大分ならではの芸術活動を期待したい。この芸術会館から世界的な大分の芸術が生まれることも夢ではないと思う。

2番目はジャンルを越えた芸術の交流です。現代の芸術は洋画、写真、音楽等の区別をとり去った形で進展しつつある。この点、多くの領域の創造活動が可能な芸術会館は、その中心的役割を果たすものと期待される。大分県内の芸術を志す人々がジャンルを越えて交流しあうことはすばらしいことである。

3つめは、すぐれた芸術文化の鑑賞です。具体的には日展や団体展、N響演奏会等の開催です。しかし、これらは閉館記念行事としては遠慮願いたい。“大分”の独自な企画を優先してほしい。

最後に、館長には美術評論家等、芸術的視野が広く、館利用者サイドで運営していただける方をお願いしたいものです。

利用しやすい会館に

三浦敬子

県邦楽研会長・宮城県県支部長

文化会館以外にまたひとつ芸術会館が出来るということは、実に素晴らしいことだと思います。

これによって県民がより一層芸術に接する機会をもつことになるのですから、これまでステージへの不満、希望は色々ですが、例えば反響板を使用している時にもどんな照明でも出来る、舞台もベルト式で左右に移動する、等々例をあげれば限りがありません。このベルト式はNHKホールが使っていますが、これからはもっと進んだことも出来るかと思っています。素晴らしい設備と環境の中からこそ素晴らしい



県立芸術会館新築
工事現場

基礎工事90%完了

左は工事現場越しに
大分市街津留地区を望む

右は現場と看板

きのうの日曜日、家中みんなで芸術会館に行きました。パパはカメラ、ママはおべんとう、僕は水とう、妹はみんなのおかしを、バスケットにつめました。五人展という展覧会をやっています。会場に入ると空気がひやりとしました。こんな絵、あ

た。ステージがしずかに明るくなると、「あーおとなりの清子ねえちゃんが出てる。」と妹が大声でいったのでびっくりしました。いつかきいたウーン少年合唱団と同じ位の小学生の歌でした。歌い終るとみんなではくしゅしました。

「この次は〇〇展覧会と、

**芸術会館に
行ったこと**

小野 一郎 ××音楽
会がある
ので、ま
た来よ
う。」

とパパがいました。
「さんせい」僕と妹はうれしくなってバス停の方へ走って行きました。

県立芸術協委員

午後音楽をききました。

874 別府市北石垣中須

らしい音楽は生まれるのでありましょうし、私達音楽をやる者の夢であったのです。

そこで是非ともみなさんの意見をより多くとり入れた、そして人々の利用しやすい、大分県民のつどいの場所となるような会館にしたいものだと思います。このことで大分県の芸術のレベルが向上することを期待したいものです。

いまからノドがなる

中 沢 とおる
県民演劇常任委員

ミヤっとできる。これが嘘のない私の実感だ。現上野丘高校長の田村先生が文化室長るとき、大分県文化団体連絡協議会代表幹事として私は県下の多くの方々を署名を集



めて県立芸術会館の建設陳情書をお渡ししたことがある。田村先生も同じ願いをもたれておられたが、実現はむつかしいですねーという嘆息まじりのお言葉だったのをおぼえている。それからみると意外に早かったが、全国的にみれば遅い方だ。遅いだけによい施設ができることを楽しみにしている。たってしまったら手直しは中々きかない。目先のちょっとした金で百年の大計を誤まらぬようにしてほしい。

芸術創造はなんといっても発表の場をもたねば、枯沼されたに等しい。美術のよい展示場が大分になかただけに芸術会館の完成は大分のすぐれた才能が、すぐれた先人のあとをついで花開くための大きな跳躍台になろう。ステージ部門は奈落が予算で削られているようで残念だが、1千人の観客席と同面積の、奥行きのあるステージが設計されているのが楽しみだ。恵まれた劇場では、その作品の成果が何倍もちがってくる。来年の作品へのとりくみに、いまから喉がなるかんじである。

そこから香り高い芸術が

藤 間 茂登女
県日舞連理事・藤茂会主宰

今、文化会館が出来た時の感激を思い出しています。長い間会館の使用を重ねていくうちに様々な要求がつのる様になりました。

第一にどの芸術部門においても、その機能を十分に発揮出来、100%の効果が得られるべく専門的な設備が望ま

しいのです。私共の分野でいうならば、花道も両花道の他に中花道、セリ、更に廻り舞台があったら、と夢は限りないのです。歌舞伎、演劇、オーケストラ等のための大ホールはもち論、全く同じ機能を備えた小ホールも欲しいのです。踊りのおさらい会、室内楽、邦楽演奏も生の音の聞ける範囲の広さ（600人程度）である事等、地の利の悪い場所である事も十分カバー出来る程の魅力ある内容を備えて頂きたいものです。

ともあれ、私達の限りない夢と願いを担って建つ芸術会館、そこから香り高い芸術が、生まれる様、期待してやみません。

新しい舞台活動の場に

笠木 啓子

県洋舞協常任理事・笠木バレエ研究所主宰

（ステージ部門によせる夢と期待）

県立芸術会館が明年オープンされることを思いますとき私は舞踊家として今から胸のときめきを覚えます。それだけにこの芸術会館に寄せる夢や期待も少なくありません。

まず、県民がどなたでも気軽に出入りできる会館であってほしいことです。しかも芸術の殿堂にふさわしく私たち県民大衆の「いのちの洗濯の場」「心の憩いの場」そして「県民性をより豊かに育ててくれる場」であって欲しいと思います。

ついで私は舞踊家の立場から常に舞台のことに心がはりますが、実は今日まで、千人内外収容できる中規模ホールがないことが何よりの悩みでした。このたび計画された県立芸術会館に、私たちが日頃夢みてきた「中ホール」の実現を見るなら、舞踊を愛する皆さんの喜びはどんなであろうかと思われまじ、大分県舞踊芸術の向上に画期的な成果をもたらすことが期待されます。

舞踊の道にたずさわる者として、会館のステージに寄せる夢や希望が限りなく湧いてきます——。充実した音響効果や行き届いた照明設備、九州内では最新の近代的ステージ……。その中で或は実験劇場的な、あるいはアトリエ公演的な「新しい舞台活動」が展開される日を夢みながら、私は県立芸術会館の完成を心からお待ちしたいと思いません。

リーダーシップをお願い

池田 萬龍

県民謡研究会長・萬謡会主

大分県の芸術芸能文化を発表する場所として、今まで大分文化会館をはじめ各種の会館が果たしてきた功績はまことに人さく、心からありがたく思っていますが、今度できる芸術会館は内容を一層充実した形で発表がされるものと大いに期待をしています。

収容人員も小じんまりして頃合いであり、恐らく音響、照明、舞台設備、装置、楽屋、駐車場などに至るまで完備していることと思いますが、私共の立場から要は演技者が演技し易く、視聴者の方が観賞し易い形、雰囲気をつくり出していただきたいと思えます。

次に理想的なことですが会館側からある程度リーダーシップをとっていただき、いろいろな分野の芸術芸能のモチ味を生かして芸術会館を機能的に活用した運営（例えば洋楽と民謡との交流、民謡発表とふるさとの写真展の同時開催など）によりご指導いただけるとありがたいと思えます。

文化団体交流の場に

三重野 元

県美協事務局次長（写真）

5月29日起工式を行った芸術会館は、来年6月には完成10月のオープン行事からいよいよ本格的にその機能を発揮することになった。

県美協は、ご承知のように絵画部門、書道部、写真部が統合して10年を迎えたというのに、合同して展覧会を行える会場が無かった関係から、それぞれ独自に開催してきた。

このことが、ひいては各部の平常からの意志疎通に欠け今日の会長問題の行き詰まりといった非常事態を招いている。まことに残念なことである。

芸術会館の完成によって、狭いながらも県美展の合同開催が実現できそうである。

今後は県美協内部はもとより、広く芸術団体の交流の場として大いに期待できると思っている。市の中心部から交通の便が悪いこともあるが、魅力ある催しによって文化の殿堂として県民の中に定着して貰いたいものだ。

県立芸術会館の建設は、多くの県民待望のものであり、遅きに失した感はあるが、それだけに落成後の企画・運営に期待したい。

建物は金さえかければ立派なものが出来るが、芸術会館は建物そのものよりも、内容の良し悪しが第一である。つまり、人（スタッフ）と金（予算）の問題である。芸術文化に造詣の深い優れた指導者、学芸員を確保することがまず大切と

思う。特に館長は芸術会館の「顔」であると同時に、大分県文化界を代表する「顔」だから、ぜひ学識豊かな、文化人を選んでほしい。

欲をいえば文化人であると同時に、予算獲得などの政治的手腕も持ち合わせた人が望ましい。初代館長は、今後の芸術会館の企画・運営の基本路線を決定する人だけに注目したい。

展示室、ホールにしろ、その生命は企画だと思う。展示室の場合、常設展示室も設けられるようだが、郷土の生んだ美術家の代表的作品を系統だって展示してもらえるとうれしい、とはいえ、常設展示室はスペースに限りがあるから、年に何回かそういう企画展示

をしてもらいたい。それに大分県にはすぐれた文化財一六郷満山文化の仏像などが豊富なので、文化財展もいろんな角度から開いてほしい。例えば、東京や京都の国立博物館などへ流出している、県民のあまり知らない国宝・重文クラスの文化財は、この際ぜひ県民に公開してほしい。それが文化財愛護思想の高揚に大きくプラスすると思う。

ステージ関係では、県民オペラ、バレエ、演劇、大分交響楽団などが、大いに活用することになると思うが、大分文化会館が完全な「貸し館」となっている

悪い先例を踏まないでほしい。ステージ関係は大きな費用を要するので、営利目的の催しと区別して、使用料を大幅に安くして活動を助長してもらいたい。

以上、ごく当たり前の期待となったが、その当たり前のことがなかなか達成できない大分県文化行政の現状を考える時、やはりもう一度、念を押しておきたい気分である。

人と金の問題

狭間 久

県芸振会員・大分合同新聞文化部記者

文化ニュース

4 月

「文化会館・市民会館館長職員研修会」県教委主催 19日（月） 県総合庁舎63会議室、自主事業促進や円滑な館運営について情報交換等。

5 月

「市町村文化行政課長・担当者会議」県教委主催 11日（火） 県庁舎正庁ホール、本年度事業の説明等。

「ソ連寄贈福田平八郎作品展」県芸振等主催 21日（金）～31日（月） 11日間 大分文化会館第一・二小ホール 県民待望の展覧会であった。多数の観覧者に深い感銘を与え有意義であった。

「県芸術祭運営協議会」県教委主催 21日（金） 大分文化会館会議室、第12回県芸術祭の運営について協議。

「吹奏楽九州キャラバン」県芸振協賛 18日（火） 津久見市民会館、演奏は東京佼成ウインドオーケストラ、プログラムの一部分に、地元県立津久見高校、津久見市立第二中が同オーケストラと合同演奏を行い、会場に和やかな雰囲気をかもしだし有意義であった。

「県立芸術会館起工式」県主催 29日（土） 立木県知事 山本県教育長 米田芸振会長はじめ多数の関係者出席

のもとに建設地現地において行った。

6 月

「県芸振事務局会議」県芸振主催 14日（月） 県総合庁舎第51会議室、県芸振今年のとりのくみについて検討。

「県芸振理事会、総会」県芸振主催 24日（木） 県町村会館、本年度の事業、予算の承認、役員決定等。

辻英武氏会長に、米田貞一氏顧問に就任された。なお、総会のあと大分県各界友好訪中団の芸術文化代表として参加した扶間正年氏（県芸振副会長）が視察報告の講演が行われたが会員研修の点から有意義であった。

7 月

「移動芸術祭巡回公演 大阪フィルハーモニー交響楽団演奏会」協賛県芸振 3日（土） 津久見市民会館 ベートーベン「運命」ほか、指揮朝日奈隆

「県芸術祭運営協議会」県教委主催 28日（水） 県総合庁舎 63会議室、県芸術祭の運営について協議。

「文化年鑑1976年版編集委員会」県芸振主催 県総合庁舎63会議室、1976年版の編集について協議。

8 月

「県短文学大会」県教委主催 8日（日） 別府市豊泉荘、県民文学の向上を目的として開催する。

「文化庁子ども芸術劇場」県芸振協賛 8日（日） 津久見市民会館、劇団風の子「カレドニア号出帆す」、対象

大分県芸術文化振興会議役員名簿 昭和51年度（五十音順）

役職名	氏名	所属団体名	役職名	氏名	所属団体名
顧問	佐藤 義詮	別府大学学長	理事	園田 喜平	県民踊連盟事務局長
"	米田 貞一		"	高橋 長一	臼杵史談会会長
会長	辻 英武		"	山川 奨	県美協副会長
副会長	扶間 正年		"	津崎 一石	県華道協会会長
副会長代行	扶間 正年		"	中沢 聖	県民演劇制作協議会常任委員
副会長	辛島 武雄		"	中野 幸和	県職場音楽連盟理事長
"	河野 彰		"	仲町 謙吉	県美協事務局長
"	宮崎 豊		"	波多野義孝	県宣伝美術協会会長
監事	平瀬 克美	県洋舞踊協会会長	"	花柳有句秀	県日舞連理事長
"	矢野 朔雄	県立大分図書館長	"	深田 光霊	日本詩道会会長
理事	江藤 豊南	別府民謡百踊会	"	丸岡 久	大分勤音協会会長
"	遠藤 梢山	県三曲協会会長	"	三河尻修二	県児童文化研究会会長
"	大崎 聡明	県美協副会長	"	宮瀬香多士	大分合同新聞社文化部長
"	木村 成敏	県文団連理事	"	森 信男	大分市教委社教課長
"	木本 数一	県高文連会長			
"	首藤 春草	県美協副会長			

10才～13才の少年少女 9日（月） 別府国際観光会館。

「文化庁青少年芸術劇場」県芸術協賛 19日（木） 牧阿佐美バレエ団「ジゼル」ほか、14才～19才の青少年を対象とする。

「県高校ユネスコクラブ活動交流研修会」県教委主催、21日（土）～22日（日） 2日間、大分市霊山青年の家、高校ユネスコクラブの発展のために行う。

9 月

「移動芸術祭巡回公演、松竹大歌舞伎」県教委主催 11日（土） 佐伯文化会館、吃又など、梅幸・菊五郎ほか。

「銃砲刀剣類登録審査会」

8月11日（水） 10時30分～16時 日田教育事務所

9月8日（水） 10時30分～16時 県総合庁舎63会議室

松竹大歌舞伎の公演

本年度文化庁移動芸術祭巡回公演の一環として、9月11日（土）佐伯文化会館で、歌舞伎の公演が行われます。

演目

傾城反魂香 吃又

御目見得 口上

屋敷娘 長唄囃子連中

弁天娘女男白浪

出演者（50名）

尾上梅幸・尾上菊五郎・坂東篁助・市川門之助・坂東亀蔵ほか。

昼の部 11時30分開演

夜の部 16時30分開演

入場料 S席 2,500円

A席 2,000円

B席 500円（学生席）

入場券（全席指定）は8月1日から発売。申し込みは、佐伯文化会館（佐伯市大手区三の丸 〒876 TEL09722②6111）へ、電話でも受け付けます。

内科・小児科

近藤内科

大分市金池南2丁目11-28上野丘中学前
TEL ④ 9553